

情報交差点・心と心の交わり

## あじまへ

大宜味村教育委員会

電話 44-3006

FAX 44-3020

祝

大宜味の魅力を大きな版画に詰め込んで…

大宜味小5年生、第59回沖縄教育版画コンクール **特選**

またまた大宜味小5年生の快挙です！

この度、5年生が第59回沖縄教育版画コンクールに共同作成で応募した作品が特選を受賞しました！

版画のテーマは「大宜味の自然」。大宜味の魅力である生きものや木、ぶながや、芭蕉、シークワサーなどを1つの版画に表しています。

大きな作品を作るのはとても大変でまず、一人一人が描いた下絵を黒板に貼り、1つの絵を作ってから彫る作業にかかり、隣同士で何回も合わせて確認しながら彫り進めました。

作業をふり返り、玉元花芽さんは「葉っぱを彫るのが難しかった」、山上蛭太さんは「それぞれで作り、1つの絵にするのが難しかった」と話しました。一人一人の版画を合わせて最後に1つの大きな作品が完成。特選の報告に金城杏奈さんは「絵ができた時は達成感があった」、我那覇夢貴さんは「頑張ったなと思った」と喜びました。

5年生全員で力を合わせて作った作品。神里陽菜乃さんは「たくさん時間をかけて作った。まずは家族に見てもらいたい、世界の人にも見せたい」と呼びかけました。



### カラキで地域活性化！北農生が貢献、給食にカラキを 給食センターにカラキ粉末贈呈



2月16日（水）、北部農林高校の食品化学科2年の具志堅永愛（とわ）さん、宮城策太（さくた）さん、1年生の石倉歌笑（うたら）さん、川満大輔先生が大宜味村教育委員会に訪れ、大宜味村産のカラキを使った特産品の商品開発への取り組みについてプレゼンテーションを行いました。

大宜味村では平成28年度からカラキ活用推進事業を行っており、辺士名高校、北部農林高校と連携しカラキの商品開発も行っています。

北部農林高校では大宜味村産のカラキについて栽培農家での研修や新商品の開発、製造研究や普及活動などを行っており、カラキ粉末の研究ではより鮮やかな色で上質な香りを出せるカラキ粉末を作り出すことにも成功。

持続的な地域づくりを目的に子どもたちにカラキのことを知ってもらいたいとカラキを学校給食のメニューとして出せないかと教育委員会、給食センターに相談があり、高校生の思いと一緒にカラキの研究をしている栽培農家の宮城美和子さんもこれに賛同。今回、給食センターにカラキ粉末を贈呈するという運びになりました。

カラキ粉末は18日の小・中学校の給食でカラキトーストになって登場！1年生の教室では「甘くておいしい」「いいにおいがする」と大好評♪みんなニコニコで美味しくいただきました。

北農生のみなさん、美和子さんありがとうございます。



### 身近な食材で食育を… 大宜味中1年生味噌づくり

2月24日（木）、大宜味中学校1年生が味噌づくりを体験しました。JA大宜味支店で開かれた今回の味噌づくり。

この日はJA大宜味女性部から10名も応援に駆け付け生徒たちと一緒に味噌づくりを進めました。

通常は3日かかる味噌づくりですが、今回は米麹と塩と大豆のたった3種類、しかも授業時間内に作ります。ポイントは「優しく大豆を潰すこと」。ここでの作業が美味しい味噌のカギとなります。

指や拳で潰したり、麺棒で優しく叩いたり、作業は簡単ですがすべての材料を細かく潰して混ぜるのはなかなか根気のいる作業です。そしてすべて潰したら、家に持ち帰り、冷暗所で3か月間寝かせます。

この日の作業を終え藤田大洋くんは「味噌を作るのは大変だと思ったけれど、楽しく簡単にできた。味噌ができあがったらみそ汁にしてご飯と一緒に食べたい。今日はありがとうございました」とお礼を述べました。

JA大宜味支店の嘉陽早志支店長は「JAでは毎年食育の一環として中学生と一緒にダンボール窯でピザづくりなど行っている。今年は手づくり味噌。小中学校の給食では女性部が作った手づくり味噌が使われており、子どもたちにも馴染みがある。味噌と言う身近な食材を自分たちで作ることで食育につながれたら嬉しい」と話しました。3か月後の完成を楽しみに待っててください。



### みんなの気持ちを合わせて唄を奏でる… 大宜味中3年生三線発表会



2月9日（水）、大宜味中学校3年生が音楽の授業で先月から練習を行ってきた三線「安波節」の発表会が行われました。

あじま～2月号で練習の様様はお伝えしていましたが、いよいよ集大成を見せる場となりました。具志堅校長先生や知花教頭先生、アナ先生などギャラリーが集まる中、演奏がスタート。みんなで素晴らしい演奏を奏でてくれました。

指導にあたった吉田春子先生は「三線と言うと習っている人たちが代表で演奏するものと思われがちだけど、今回は全員が主役で同じ舞台に立った。練習では友達同士で教え合っておりその姿が素晴らしかった。はちさん、吏勇さんが先頭を切って声を出しみんなを引っ張ってくれた。わずかな練習期間だったが、みんなよく覚えてくれた。本当に素晴らしい演奏。今回の授業は沖縄の伝統芸能である三線を学ぶいい機会になったと思う。一緒に指導にあたった杏実先生や毎回ちんだみしてくれた姿野先生にも感謝したい」と喜びました。

経験者も初心者も入り混じっての演奏。3年生の気持ちが1つになった素晴らしい発表会でした。

### 大兼久遺跡緊急発掘調査住民現場説明会

大宜味村役場新庁舎建設に伴い、7月から1月にかけて村教育委員会が主体となり、大兼久遺跡の緊急発掘調査が実施されており、去った2月18日（金）に大宜味村在住の方を対象に現場説明会を実施しました。あいにくの雨で説明会は大宜味村役場旧庁舎内で行い、雨の合間を見て現場を見ていただきました。説明会では文化財担当者による発掘調査の意義や調査の方法、今回の調査での成果を出土した土器や現場での写真を見せながら説明をしました。

今回の調査は弥生から平安時代相当の遺跡を発掘しており、その当時の土器などが出土しました。また新たな発見があり、縄文時代相当の土器や当時使用されていたと想定される遺構（集石遺構）が発見され、遺構内から出た炭を年代測定にかけると約3300年前の遺構とわかりました。これは大宜味村では最も古い人々の生活の痕跡です。今後は調査成果を更に詳しく調べ、整理し、発掘調査報告書として村内や県内外の行政機関へ配布する予定です





# 村史編さんだより

第131号 2022年3月1日 大宜味村村史編纂係44-3009

## 入植当時の江洲のくらし

江洲は、1959（昭和34）年、琉球政府の開拓計画でイーシウフドウ（江洲大堂）に入植がはじまり、1962（昭和37）年に行政区“江洲”として独立した戦後の開拓集落です。新しくできた集落ということもあり、昔の写真がなかなか出てこなかったのですが、沖縄県公文書館所蔵「復命書 宮古開拓地高野開拓団、八重山石垣各移住地区、大宜味大保開拓団」（琉球政府経済局農地課作成 / 1964年）という資料の中に江洲の写真がありましたのでご紹介します。開拓当時の生活や農業の様子が分かる貴重な記録です。



江洲の全景



パイン畑



通学路（高校生）



畑仕事



後方に販売用の薪の山が見える



さとうきび畑



江洲の子供たち



江洲の子供たち



簡易的な豚小屋



水牛を使って農業



水牛を使って農業



豚舎



売店



ブロック造り



茶園

「**仙山制度論**」（仲吉朝助著・明治三十七年）を読む 十三（村史だより一二七号より続き）

※旧漢字・仮名使いは現代風に改め適宜句読点をつけるとともに一部訳文をつけた

### 第六章 仙山の造林

#### 第二節 造林費

近年に至りては各間切共に臨時造林費の下付を請願するもの続出せしに依り、遂に藩庫は更に各間切に対する補助額を定めて毎年交付せり。しかして置県後に至りても沖縄県は右の慣例に基き毎年国庫に請求し樹木仕立費と称して下付するを例とす。但しこの仕立費は古来専ら藪山仕立換の為に補助したるものなるを以て一名これを藪山仕立料と称す。――中略――

右の仕立費は間切に於てはこれを各村に配当する所あり。或は直ちにこの仕立費を以て人夫を使用し種子を購入して仕立をなす所ありて、その実際に於ける造林費収支の慣例は到る所多少の異同あるを以て左に現況の概略を摘載せん。

#### 一、中頭郡に於ける仙山仕立費の負担

イ、西原、中頭の両間切は数名の山番人を設け山番人に於て樹木の苗を採集してこれが仕立をなす。しかしてその報償として山番人口畑と名づけ藩庁の認可を受けて一名に付五百坪乃至七百坪の畑地及び宅地を交付せり。具志川、越来、美里、北谷、読谷山の五間切は、各村の地人総人口（地人とはその村従来の百姓なり藩制は村民が他に転籍することを禁ぜしを以て他に移住するものは凡て一時寄留の名義に於てなす。これを居住人と唱う。故に村には地人、居住人の別ありてその居住人が間切、村に対する権利義務共に甚だ薄弱なり）に依りて現人夫を賦課して仕立をなす。

#### 二、国頭郡に於ける仙山仕立費の負担

イ、恩納間切は各村共に地人、居住人を問わず十五歳以上五十歳以下の男女総人口に現人夫を賦課す。但し吏員はその夫役を免除せらる。

ロ、名護間切は村に依りてその賦課法二様あり。即ち甲は現人夫を宅地に賦課し乙はこれを持地（村より配当したる土地）に賦課す。もつとも居住人に対しては現人夫を課せずして受銭なるものを出さしむる村あり。或は毎戸一人ずつの現夫を出さしむる所あり。又或はその家の強弱に応じて適当の人夫を出さしむる所あり。

ハ、今帰仁間切は村の強弱、人口の多寡、耕地の広狭等酌料して頭札なるものを定め現人夫をこの頭札に賦課す。

ニ、羽地間切各村はすべて地人居住人を問わず（吏員を除く）十歳以上の男女総人口に賦課す。

ホ、大宜味間切は地人の十五歳以上五十歳迄の男子に現夫を賦課し、居住人には人夫加勢と称して現夫を寄付せしむ。（大宜味間切は地人の十五歳から五十歳までの男子に無償労働を課し、居住人には人夫加勢と称する有志の無償労働を呼び掛けた）

ヘ、国頭間切の現人夫賦課方法は村に依り二様あり。一は十五歳以上五十歳までの男子（居住人も含む）に賦課し、一はその村の正頭数（今帰仁間切の所謂頭札）に賦課す。

ト、久志間切は男十五歳以上女十四歳以上五十歳までの人口に賦課す。しかして地人、居住人の区別を設けず。

チ、金武間切も二様あり。即ち十五歳以上三十五歳までの現住男子に賦課する村あり。或は十五歳以上四十歳乃至五十歳までの現住男子に賦課する所あり。共に吏員はその賦課を免除せらる。

ツ、立費中の現人夫は右の方法にて賦課す。しかして仕立に要する種苗も又村民より徴収するものにして、その賦課の方法現人夫賦課と同一なるを以てその慣例を列記することを略す。ついでに保護、管理に関する費用に付き付記すべし。即ちその費用中現人夫に関するものは以上の慣例と同一にして、金銭は間切、島議会の決議により間切、島税を以て支弁せり。

右の慣例中将来なおその存続を要すべきものと共に、改良を促すべき点又少なからざるべし。しかして仕立費補助金の如きはその分配方法常に一定せるを以て例え間切、村の管林事業拡張するもこれを増加することを得ざれば、その事業縮小するも又これを減額すること能わず。（右の慣例中には改良すべき点が少なくない。しかし、仕立費補助金というものは分配方法が決まっております、間切、村の管林事業に増減があった場合でも補助金の増減はできないよう仕組みになっている）

この如きは補助の実効を奏すること能わざるべし。造林費賦課の如き間切、村の異なるに従ってまちまち一定せず。甚だしきは等しく住民にして地人なるものはこれを負担し、居住人はその義務を負わざるが如きは又穩当の方法にあらずして監督上不便なからず。（このような仕組みは補助の効果を上げるの妨げになるばかりでなく、造林費賦課のように間切、村によりまちまちで、その甚だしいのは同じ住民であるにも関わらず、地人はその義務を負い居住人は義務を免れるというのは穩当なやり方ではなく、監督上も不便がある）

しかしして造林の方法手続に至りては非難すべき点甚だ多し。これ等の改善策は更に仙山地方の経済事情と林地の実況を調査するを待ちて他日の考究を期すべし。（そして造林の方法や手続に至っては、よくない点が非常に多い。その改善策については仙山地方の経済事情と林地の実情調査を行なった上で、別の機会に検討する）

（※訳文は大意を記す。浅学につき御笑覧の上、御教授請う 文責：新城）



# 「しまふとうば」ぬくとう 74



うみがーみー

50年前の1972年5月15日にアメリカの施政権下にあった沖縄（琉球政府）が日本の施政権下の「沖縄県」になった。「沖縄県」になる前後数年間は世替わりで、まさしく沖縄が大きく揺れ動いた時代であった。那覇市にある与儀公園をはじめとして多くの場所で数万人規模の集会やデモ行進等が行われた。学生運動も大きく盛り上がった時代であった。革マル派、中核派、民青（民主青年同盟）等々の派閥が盛んに活動をしていた。当時学生であった私も多くの集会やデモに参加した。騒然とした沖縄の社会情勢の中で、デモや学生運動の内ゲバ等で数名の犠牲者も出た。

与儀公園で行われた5万人規模の集会の後、牧港(?)にあるアメリカ領事館までのデモ行進になり、私のいる行列が安謝に差し掛かったころ異常な事態になった。前の方で行進している人々が血相を変えて逃げ回っていた。その先を見ると機動隊が警棒を振りかざして迫ってきたので事情を把握できないまま皆我先にと逃げ回った。私も安謝の横道に入り必死に走って難を逃れた。そのあとは暗い夜道を安謝から首里崎山町の間借先に徒歩で帰ったが道順は記憶になかった。翌日の新聞に領事館前で学生と機動隊が激突し機動隊の1人が死亡したことを知って前日の機動隊の行動が理解できた。

当時の琉球大学は龍潭の池の側に男子寮があったが、そこでは学生同士の内ゲバがあり1人が3階から投げ落とされて死亡した。また私の友人であった名護出身の学生が講義中に人違いで襲われて死亡した。更にある日「お前が米須か！」と数名の学生に襲われそうになったが学部の先輩が来て「米須間違いだ」と言って助けられた。学部同級生に中部出身の革マル派に属する「米須」がもう一人いた。寸前のところで名護の友人のように人違いで襲われるところだった。等々・・・50年前の騒然としていた沖縄の姿が昨日のこのように思い出される。

～～ あきよ沖縄や 世定みがやゆら 荒波ぬ歴史 沈い浮ちやい ～～

## 今月の生きもの

## キョウゲンボウ：ハヤブサ科



撮影：村山望

こんにちは♪私キョウゲンボウです。鳩くらいの大きさのかわいいハヤブサの仲間です。私は開けた場所が好き。時々畑や草地にいる小型のネズミやセズジツチイナゴ等の大型のバッタをホバリングしながら狙います。あまり気づかれていないかもしれないけど、喜如嘉や結の浜みたいな開けたところにいるんです。冬鳥なので私と会えるのはあと少し。意外と身近にいるから探してみてくださいね。

## 3月の行事予定

- |                          |                             |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1日（火）区長会 県立高校卒業式         | 15日（火）県立高校合格発表              |
| 5日（土）ニバス県オールスター-GAME ～6日 | 16日（水）（園）卒園式（5歳児）           |
| 8日（火）（小）学級保護者会           | 17日（木）（小）卒業式                |
| 県立高校入試①（国・理・英）           | 18日（金）（小・中）修了式・離任式 PTSA 送別会 |
| 9日（水）県立高校入試②（社・数・面接）     | 21日（月）春分の日                  |
| 12日（土）（中）卒業式             | 24日（木）定例教育委員会議              |
| 14日（月）（中）振替休日（3/12 卒業式）  | 30日（水）（園）修了式（0～4歳児）         |

3月13日



サンドイッチデー

シークッカーも香り始め、大宜味にも春がやってきました。春は生きものたちがイキイキする季節。ヤンバルクイナやノグチゲラ、アカヒゲなどの野鳥たちも繁殖期に入り活動的になります。暖かくなると嬉しいですね。